

研修報告書

産業・情報教育部産業教育班 長期派遣研修員（福岡県立福岡農業高等学校 教諭） 山下 優子

1 主題研修について

研究主題 「ファッションデザインの創意工夫ができる生徒を育てる『ファッション造形基礎』の学習指導—ファッションポートフォリオ作成の学習活動を通して—」

(1) 研究のねらい

ア 課題の背景

社会構造や雇用環境が急速に変化している現代においては、情報を読み解き、社会のニーズに応える視点を持つことや、他者と協働して思考を深め、創意工夫できる力を育成することが求められている。専門教科「家庭」の科目「ファッション造形基礎」においては、被服の構成、被服製作等について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けること、職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養うこと、主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことが大切であると明記されている。このことから、将来ファッション造形を担う職業人として視野を広め、思考を深めながら、創意工夫に取り組むことができる学習活動を仕組むことが重要であると考えられる。

イ 研究の目的

職業人として社会の状況を把握し、それに対応すべく様々な情報を集め整理し、広い視野で新たなものを創造できる実践力を身に付けることは重要である。そこで、科目「ファッション造形基礎」の学習指導において、学んだ知識や技術を活かし、社会のニーズに応える視点を持って取り組むファッションデザインの学習課題を仕組むことが必要であると考えた。この学習課題に対し、ファッションポートフォリオを作成し、蓄積した情報やデザインを振り返り、活かしながら思考を深めていくファッションポートフォリオ作成の学習活動が、ファッションデザインの創意工夫ができる生徒を育てるために有効であることを明らかにする。

ウ 研究の仮説

科目「ファッション造形基礎」において、ファッションデザインの学習課題に対し、ファッションポートフォリオを作成し、蓄積した情報やデザインを振り返り、活かしながら思考を深めていく学習活動を行えば、ファッションデザインの創意工夫ができる生徒が育つであろう。

(2) 研究の構想

ア 主題の説明

「ファッション」とはニーズに対応した服飾のこと、「デザイン」とは服飾を考案することである。新しいデザインを生み出すためには、社会のニーズ等の情報が必要であり、集められた多くの情報が整理される中で、新しいデザインを生む土壌が整えられるとされている。つまり、服飾についての情報を収集した上で根拠を基に考え、表現することが「ファッションデザイン」である。

「創意工夫」とは、考えをめぐらせよりよいものを作り出すことであり、「創意工夫ができる生徒」とは、多くの要素を知ることによって考え方を広げ、組み合わせる等、思考を深めた上で、具体的な考えを表現できる生徒のことである。

したがって「ファッションデザインの創意工夫ができる生徒」とは、①ファッションに関する職業人の視点を知った上で、②情報収集や意見交換を通して視野を広げ、③協働活動を通してデザインの要素を整理、組立等、構想を練ることを学び、④個人でパターン変化、コーディネート等を具体的に考えたデザインの表現ができる生徒のことである。本研究の目指す生徒像を以下のように設定する。

- 職業人の視点を知ることができる生徒（気付く）
- 視野を広げることができる生徒（広げる）
- 構想を練ることができる生徒（深める）

○ 具体的なデザインの表現ができる生徒（活かす）

副題の「ファッションポートフォリオ」とは、イメージやデザイン画とともに、使用する素材などを書き添え、コンセプトを追究し作品を作り上げるまでの過程を示したものである。ファッション業界では、このファッションポートフォリオで「なぜこの服を作るのか」を可視化し、企画提案する際に用いられる。

「ファッションポートフォリオ作成の学習活動」とは、各自のファッションポートフォリオに情報やデザイン、活動記録、評価等を蓄積し、振り返りを繰り返しながら、ファッションデザインを学ぶことである。「ファッションポートフォリオ作成の学習活動」の効果は、次の3点であると考えられる。

- 作成を通して、職業人の視点を意識した活動に取り組み、思考を深めることができる。
- 振り返ることで、その後の活動に活かすことができるとともに、生徒自身が成長を実感できる。
- 他者のファッションポートフォリオを見ることで、自分にはない視点到に気づき、学び合いができる。

イ 研究の内容

本研究は、第2学年生活デザイン科の生徒を対象に、科目「ファッション造形基礎」単元「洋服の製作」のブラウス1枚目の製作を終えた時期に行う。「気付く」「広げる」「深める」「活かす」の4段階を位置づけ、ファッションデザインの創意工夫ができる生徒を育てるためにファッションポートフォリオを作成しながら、応用ブラウスの提案を段階的に行うこととした。

(7) 「気付く」段階

「気付く」の段階では、ブラウス製作1枚目の基礎的・基本的な知識・技術を活かした応用ブラウスのデザイン画1枚目を描く。その後、プロフェッショナル（以下プロと示す）の動画を視聴し、気付いたことを「気付くシート」に記入する。ファッションポートフォリオの説明を聞き、それを作成して応用ブラウスの提案を行うことを理解した上で、応用ブラウスのデザイン画1枚目と「気付くシート」を綴じ込む。プロの話

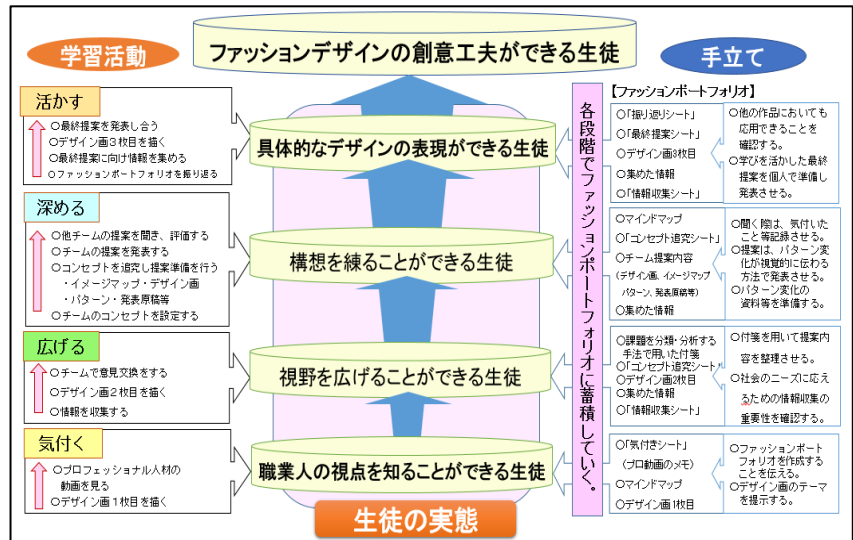


図1 研究構想図

から職業人の視点を理解し、それを意識することの大切さに気付くことができるようにする。

(4) 「広げる」段階

「広げる」の段階では、情報収集の場面を設定する。その際「気付く」の段階で、プロの動画から学んだ、社会のニーズに応えるための情報収集の重要性に基づき、情報を収集する。次に、収集した情報を活かして応用ブラウスのデザイン画2枚目を描き、ファッションポートフォリオに綴じ込む。その後、類似したデザイン画を作成した生徒のチームで、ファッションポートフォリオを用いて意見交換を行う。これらから職業人の視点を意識した様々な情報と他者の意見を基に、生徒自身の情報の範囲を増やし、視野を広げることができるようにする。

(5) 「深める」段階

「深める」の段階では、「広げる」の段階で意見交換したチームで、コンセプト追究活動を行い、その後、クラスにおける提案発表会を行う。コンセプト追究活動では、これまで蓄積したファッションポートフォリオを見せ合いながら、チームのコンセプトを設定し、それを具現化するためのデザインの組み合わせ方や製作方法を練る。その後、役割分担して、コンセプトを写真や配色カードで表すイメージマップ及び応用ブラウスのデザイン画の作成、パターンの検討、シーチング（仮縫い用の生

地)による試作等、提案の準備をする。提案の準備の活動記録や情報等は、各個人のファッションポートフォリオに蓄積し、その後も活用できるようにする。提案発表会では、各チームが提案を発表し他チームの提案を評価する。これらの活動を通して、デザインの要素の整理、組立等の構想を練る力が高まると考える。

(エ) 「活かす」段階

「活かす」の段階では、「気付く」「広げる」「深める」の段階で学んだことを活かして、個人で応用ブラウスの最終提案を行う。その際、これまでのファッションポートフォリオを振り返り、再度、コンセプトを設定し、それを具現化するために必要な情報を加え、応用ブラウスのデザイン画を作成、パターンの検討を含めた提案を行う。この最終提案において、ファッションポートフォリオの蓄積を活かし、社会のニーズに応える視点で、具体的なデザインを考え表現できれば、ファッションデザインの創意工夫ができたと考える。

(3) 研究の実際

ア 実証授業の指導計画(総時間12時間)

配時	段階	学習活動	ねらい	ファッションポートフォリオ
1	気付く	①応用ブラウスのデザイン画1枚目を描く。 ②デザインの要素のマインドマップを描く。	○これまでに習得した知識や技術を活かして考えさせる。	○デザイン画1枚目 ○マインドマップ
1		①プロの動画から、気付いたことをまとめる。	○職業人の視点を理解させる。	○「気付きシート」
2	広げる	①「気付く」段階の情報収集の重要性を確認し、情報を収集する。 ②デザイン画2枚目を描く。	○デザインに必要な情報収集ができるようにする。 ○社会のニーズに対応した提案を意識できるようにする。	○「情報収集シート①」 ○集めた情報 ○デザイン画2枚目
1		①デザインをチームに提案する。 ②他者の提案を聞く。 ③意見交換を行う。	○情報の範囲を増やし、視野を広げる。	○「コンセプト追究シート①」(相互評価) ○課題を分類・分析する手法で用いた付箋
4	深める	①チームのコンセプトを設定し、追究する。 ②役割分担して、提案発表会に向けた準備をする。 ③活動内容を記録する。	○協働活動を通して、デザインの要素の整理、組立等の構想を練る力を高める。	○「コンセプト追究シート②」(活動計画・活動記録) ○集めた情報 ○チームの提案内容(デザイン画・イメージマップ・発表原稿等)
1		①チームの提案を発表する。 ②他チームの発表を聞き、評価する。 ③デザインの要素のマインドマップを描く。	○他チームの提案から、デザインの要素の整理、組立等の構想を練る力を高める。	○「コンセプト追究シート③」(相互評価) ○マインドマップ
2	活かす	①ファッションポートフォリオを振り返る。 ②最終提案に必要な情報を集める。 ③デザイン画3枚目を描く。 ④最終提案の発表と相互評価を行う。 ⑤成果と課題をまとめる。	○ファッションポートフォリオで自分の思考の変化を振り返らせる。 ○社会のニーズに対応した具体的なデザインの表現ができるようにする。	○「情報収集シート②」 ○集めた情報 ○デザイン画3枚目 ○「最終提案シート」(相互・自己評価) ○「振り返りシート」

イ 各段階の指導の実際と考察

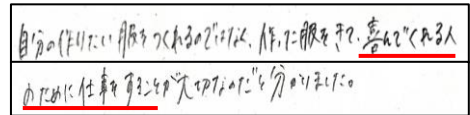
(7) 「気付く」段階

「気付く」の段階では、ファッションに関する職業人の視点を知ることがをねらいとした。まず、ブラウス製作1枚目の基礎的・基本的な知識・技術を活かした応用ブラウスのデザイン画1枚目を描いた。その際、テーマを「高校生が着る夏ブラウスを用いたトータルコーディネート」とし、そのデザインの要素を記したマインドマップを作成した。次に、ファッション業界で活躍しているプロによる動画を視聴した。それは、仕事をする上で大切なことや仕事の流れ等の内容であり、生徒は「気付きシート」に職業人の視点として、社会の

・ 社会のニーズに応える視点
・ 過去の流行トレンド情報も参考に可
・ 基本を学ぶことが大事
・ コミュニケーションが必須

資料1 気付きシート
(職業人の視点)

ニーズに応えるための情報収集の重要性や、縫製の基礎・基本を学ぶことの大切さ、一緒に仕事をする仲間とのコミュニケーションの必要性等を挙げた（資料1）。感想には、「自分の作りたいものを作るのではなく、喜んでくれる誰かのために仕事をするのが大切だと分かった。」（資料2）、



資料2 気づきシート（感想）

自分が描いたブラウスは、社会のニーズに応える視点は入っていなかった。」等の記述が見られた。その後、プロも用いるファッションポートフォリオを作成して、応用ブラウスの提案を行うことを理解した上で、各自のファッションポートフォリオに応用ブラウスのデザイン画1枚目、マインドマップ、「気づきシート」を綴じ込んだ。これらにより、職業人の視点を知り、応用ブラウスのデザイン画1枚目を振り返ることで、職業人としての視点を意識することの大切さに気付くことができたと考えられる。

(イ) 「広げる」段階

「広げる」の段階では、視野を広げることをねらいとした。まず、情報収集の場面を設定し、「気付く」の段階で学んだ社会のニーズに応えるための情報収集の重要性をファッションポートフォリオで確認した。その上で、情報収集を行ったところ、過去の流行や今年のトレンドを「情報収集シート」に記入する生徒や、インターネットから情報を集め印刷する生徒、ファッション雑誌を切り抜く生徒がいた。次に、その情報を活かして応用ブラウスのデザイン画2枚目を描き、ファッションポートフォリオに綴じこんだ。類似したデザイン画を作成した生徒のチームでファッションポートフォリオを用いて意見交換したところ、感想に「知らなかった情報を取り入れデザインに活かすことができた。」「他の人の意見を聞くことで自分の想像箱が膨らんだ。」等の記述が見られた。これは、職業人の視点を意識して集めた情報とデザイン画を基に意見交換する活動を行うことで、生徒自身の情報の範囲が増え、視野を広げることができたためと考える。

(ウ) 「深める」段階

「深める」の段階では、デザインの構想を練ることをねらいとした。「広げる」の段階で意見交換したチームで、コンセプトを追究する活動を行い、その後、クラスにおける提案発表会を行った。コンセプト追究活動では、これまで蓄積したファッションポートフォリオを見せ合いながら、チームのコンセプトを設定し、それを具現化するためのデザインの組み合わせ方や製作方法を練った。その後、役割分担して、イメージマップ及び応用ブラウスのデザイン画の作成、パターンの検討、シーチング（仮縫い用の生地）による試作等、提案の準備をした。提案準備における活動記録や情報等は、その後も活用できるように、各個人のファッションポートフォリオに蓄積した。これらの活動の感想には「自分一人では考えつかなかったデザインに出会うことができた。」「みんなで一緒に作ってみると、アイデアがたくさん出てきて世界一のブラウスができてうれしかった。」等の記述が見られた。提案発表会では、パターンの変化が視覚的に伝わる工夫をし（図2）、相互評価を行ったところ、「パターンを少し変えるだけで、色々なブラウスができることを知った。はじめて知ったこともたくさんあった。学んだことを活かしていきたい。」等の記述が見られた。これらはチームのコンセプト追究活動で、コンセプトを具現化するために、ファッションポートフォリオを活用してデザインの要素を整理、組立、構想を練りながら形にしたことと、提案発表会で他チームの提案からもデザインの組立や製作方法を学び、デザインに対する考えを深めることができたためと考える。



図2 チームの提案内容

(エ) 「活かす」段階

「活かす」の段階では、具体的なデザインの表現ができることをねらいとした。「気付く」「広げる」「深める」の段階で学んだことを活かして、個人で応用ブラウスの最終提案を行った。これまでのファッションポートフォリオを振り返った上で、再度コンセプトを設定し、それを具現化するために必要な情報を加え、応用ブラウスのデザイン画を描き、パターンを含めた提案を行った。「最終提案シート」には、「提案発表会等での新しい発見を次に役立てたいと思い、チームでの提案や情報を

基にデザインを考えた。」などの記述が見られた。最終提案をチーム内で発表し、相互評価で選ばれた代表者がクラスで発表した。生徒の最終提案は、蓄積したファッションポートフォリオや、「深める」の段階におけるコンセプト追究活動と提案発表会を活かした内容になっていた。また、「最終提案シート」の相互評価には「最初は、自分視点で考えていたが、もっと色々な所に目を向けることが大切だと思った。」(資料3)などの記述もあることから、デザインに対する自分自身の思考の変化に気付くことができたと考える。さらに、ファッション業界勤務の卒業生から「トレンドが反映されたコーディネートになっており、創意工夫された最終提案が多い。」という評価を受けた。

最初は本当に自分重視の自分視点で考えていた。友人のデザイン画や提案を通じて、もっと色々な所に目を向けることが大切だと思いはじめた。

資料3 最終提案シート

これらは、応用ブラウスの最終提案で、ファッションポートフォリオの作成やチームにおけるコンセプト追究活動で学んだことを活かし、職業人の視点を意識してパターンや製作等に取り組み、様々な要素を整理、組立等、構想を練ることで、「具体的なデザインの表現」ができたためと考える。

(4) 全体考察

ア 職業人の視点を知らることができる生徒

「デザインを考える時どんな知識や技術が必要と思いますか」の質問に対し、事前では「分からない」28.9%、「絵を描く力」26.3%であったのに対し、事後では「トレンドや流行」「パターン変化」「縫製の知識・技術」等、プロに必要な知識や技術の記述が増えた(図3)。これらは、ファッションポートフォリオに綴じた「気付きシート」の記述内容であり、何度も振り返ることで、職業人の視点を意識して、応用ブラウスの提案に取り組みした結果と考える。このことから、応用ブラウスの提案に向けて、ファッションポートフォリオを作成し、振り返りと活用を繰り返し、デザインを整理、組立、構想を練りながら、形にする学習活動を仕組んだことは、「職業人の視点を知ら」ことに有効であったと考える。

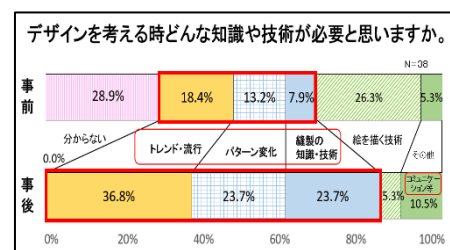


図3 知識・技術に関する質問

イ 視野を広げることができる生徒

「ファッションに関する情報を集めますか」という質問に対して、事前と事後で21.1%の伸びが見られた(図4)。生徒達は、元々ファッションへの興味・関心が高かったが、「今年のトレンドを知っていますか」の項目に対し、肯定的な回答をした生徒は、事前31.6%に対し、事後では84.2%であった。具体的なトレンドの内容の質問には、記述量や専門用語の使用が増えたことから、情報収集が自分の好みから、社会のニーズに応える視点を意識したものへと変化したことが分かる。これらのことから、職業人の視点を意識して集めた情報や、デザインを蓄積したファッションポートフォリオを用いた意見交換は、自分自身の情報の範囲を増やし、「視野を広げること」に有効であったと考える。

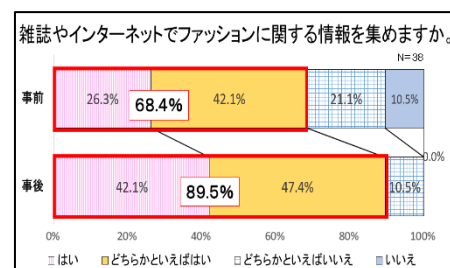


図4 情報収集に関する質問

ウ 構想を練ることができる生徒

デザインの要素を記したマインドマップの事前事後の記入内容を比較すると、社会のニーズや縫製技術の要素等、職業人の視点が加わった(図5)。感想の「チームでデザインの組み合わせを考える中で、自分一人では考えつかなかったデザインを知ることができた。」「頭の中できちんと、イメージしながらデザインするようになった。」等の記述からも、デザインを作るために、様々な要素を整理し、組立等、構想を練りながら形にしていくことを体験的に学ぶことができたと考えられる。また、自己評価の知識・技術の活用、情報収集に関する項目の平均値は、「気付く」「広げる」の段階に比べて高くなった(図6)。チームによるコンセプト追究活動で、他者とデザインの

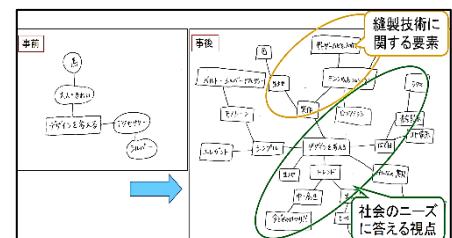


図5 マインドマップ

整理、組立等の構想を練りながらブラウスを形にしたことや、提案発表会で他チームのデザインの組立や製作方法を学んだことから、デザインに対する考えを深められたことが自信につながったと考える。これらのことから、ファッションポートフォリオを活用してチームで取り組んだコンセプト追究活動と提案発表会は、デザインの「構想を練ること」に有効であったと考える。

エ 具体的なデザインの表現ができる生徒

「学んだことを活かし、新しいデザインを考え製作することができますか」の質問に対して、事前と事後で62.4%の伸びが見られた(図7)。応用ブラウスのデザイン画1枚目では、自分が製作したブラウスのコーディネートを考えるだけで精一杯の生徒や、着用不可能なデザインを描いた生徒が多く見られたが、最終提案では、社会のニーズに応える視点を意識したデザインになり、その具現化のためのパターンの変化や、トレンドが反映されたコーディネートの提案ができるようになった。また、「振り返りシート」には、「デザインを考える上でファッションポートフォリオが一番の頼りになった。」という記述が見られた。一方、応用作品の製作に関する自己評価(事前・事後)では、知識・技術の活用、情報収集、協働する力、振り返り、創意工夫のすべての項目で伸びが見られた(図8)。これらから、応用ブラウスのデザインの提案において、ファッションポートフォリオを作成し、振り返りと活用を繰り返しながら取り組むことで、パターンや製作手順に関する理解が深まり、「具体的なデザインの表現ができる」ようになったことを実感し、自信につながったと考える。

以上のことから、ファッションポートフォリオに情報やデザイン、活動記録、評価等を蓄積し、振り返りと活用を繰り返しながら、ファッションデザインの課題に取り組む学習活動を仕組むことは、ファッションデザインの創意工夫ができる生徒を育てる上で有効であったと考える。

(5) 研究の成果と今後の課題

ア 研究の成果

- 科目「ファッション造形基礎」において、学んだ知識や技術を活かしたファッションデザインの学習課題を段階的に行う学習を仕組んだことで、職業人の視点を意識した活動に取り組ませることができた。
- ファッションポートフォリオを作成し、振り返りと活用を繰り返しながら学習に取り組むことで、デザインに対する思考を深め、創意工夫できる生徒を育てることができた。

イ 今後の課題

- 創意工夫ができる生徒を育てるため、本研究で取り組んだファッションポートフォリオ作成の学習活動を他の単元や、発展科目である「ファッション造形」において、実証を行っていく。

＜参考文献＞

- ・ Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース(平30) https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/06/06/1405844_002.pdf
- ・ 鈴木敏恵著(平29)「AI時代の教育と評価」 教育出版
- ・ 猪又美栄子ほか7名(平27)「ファッション造形基礎」 実教出版
- ・ 文部科学省(平27)「ファッションデザイン」 実教出版

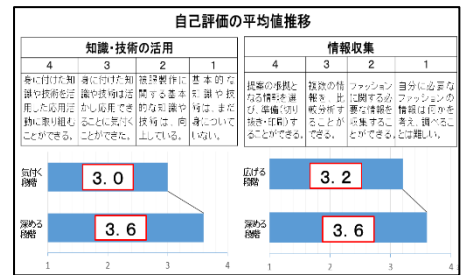


図6 自己評価の変化

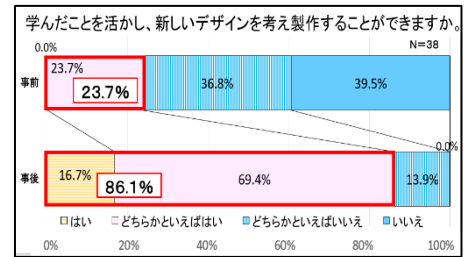


図7 デザインに関する質問

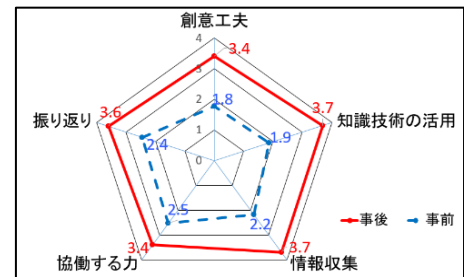


図8 自己評価の結果

2 一般研修について

(1) 各研修の報告

ア 第1回セミナー研修会（令和2年4月2日）

大きな変化が起こる激動の時代、生徒達に生き抜く力をつけるためには、魅力ある教師になることが大切であり、人間力を高めるために与えられた1年であると改めて理解した。

主題研修は、専門的指導力及び実践的指導力の育成を図るとともに、地域や在籍校の教育活動へ研究成果を還元することをねらいとするものであり、不易と流行を見定めること、創造的な姿勢で取り組むことが大切であると示唆を受けた。また、一般研修は、課題を設定し、実践可能な具体的な課題解決の方途を追求する自己課題研修と、専門領域以外の視点からの見識を深め、学びを地域や学校現場へ還元することをねらいとするセミナー研修および所内研修があり、主体的、協働的に教育活動に取り組むことが生徒へのより良い支援につながると理解した。

産業・情報教育部長からの「鳥の目、虫の目、魚の目」の話のように、全体を見た上で細かな指導を行うこと、そして先見の明をもって、生徒達に接することが大切であると常に心に留めておく。

イ 第3回セミナー研修会（令和2年5月27日）

言語能力は、理解する（インプット）と使う（アウトプット）に大きく分けることができる。これは、すべての教科で育成すべき能力であり、学習の基盤となるものである。どの教科においても、教員の「何のために」「何のための活動か」の意識で、授業での言葉がけやプリント作り、発問の仕方等が変わることを学ぶことができた。今回の研修は、言葉の概念を問い直すきっかけとなった。現場での授業づくり、文書作成等に活かしていきたい。

ウ 第5回セミナー研修会（令和2年7月20日）

コミュニケーションの基本として、「自分から話す」とともに、相手の話を「聴く」技術も大切で、相手を理解するためには、教員自身が感受性を高める必要があると理解できた。また、生徒と関わる際の「信」「認」「任」の3つの心構えは、教員同士の関わり方にも通じる。教員は、「身体や知識だけでなく、感情の移入が必要とされる労働作業である」との言葉から、一人で抱え込むことの無いよう、日頃からの協力し合える関係づくりが必要だと改めて感じた。その後の演習では、コミュニケーション力を高める技術を体験的に学ぶとともに、長期派遣研修員と想いを共有できた有意義な時間となった。学んだことを自分なりに消化し、次世代の教員に伝えていきたい。

エ 第9回セミナー研修会（令和2年10月19日）

「福岡県の教育課題・経営課題について」の講義では、目指す生徒像や教育に必要なことは、時代の流れに伴う変化を理解することであり、これからの子供たちに求められる力は、クリエイティブやコラボレーション等である。また、学習指導要領は、その時代時代に求められる力を読み取るヒントになると学んだ。その後、「10年後、所属校はどんな学校になっているか、どんな学校にしたいか。」「そのために、何をするか。」という内容で協議を行った。私は在籍校の生活デザイン科職員として、地域での広報活動に力を入れたいと考えている。在籍校の課題を踏まえた各学校の先生方との協議は、視野を広める機会となり、学校経営を担う一員としての責務を感じた。

オ プレミアム・スタディ（令和2年10月29日）

「人間関係の基盤としての授業づくり・絆づくり」の研修に参加した。言葉は誰かの心で生き続けるので、教員として、言葉選びに責任を持つとともに、生徒の言動から気持ちを見とる感受性を大事にしたいと改めて感じた。一人ひとりを大切にする工夫として、授業においては、意見交換、スピーチ等の発表の場を設定すること、その際、発表者の最遠方に移動し公平性を持つこと、単位時間に真剣勝負し、目の前で生徒の学びを確認すること、日々の積み重ねを大切にする事等を学んだ。また、教員同士の人間関係作りについても、毎日短時間でもコミュニケーションを図ることが有効であり、互いに考えを発信することで、チームの想いが一つになるという話は、私自身もこれまでの経験で、実感している。今後現場に戻った際は、生徒との日々の関わりを大切に、他の教員や保護者と連携を図り、地道に人間関係づくりに取り組んでいこうと改めて決意した。

3 長期派遣研修の年間の自己評価

(1) 年間の自己評価

ア 主題研修について

学習指導要領を読み込む、文献を調べる等、自分自身の専門力・知見を広げる時間となった。社会のニーズに応える視点や他者と協働する力、創意工夫ができる力等、これから求められる力を知ること、学校でどのような力を育てればよいのか、そのためにはどのような授業をすればよいか追究し、授業構想を練ることができた。ファッションに関する教材研究ができたことで、教科指導力も高まった。今後も、ファッションポートフォリオ作成の学習活動について実践を重ね、家庭科教員にもその有効性について伝えていきたい。

イ 一般研修について

所内研修会やセミナー研修会では、学校生活では出会えない方々からの貴重な講話により、専門的な内容や教育課題等を学ぶことができた。部班横断の情報交換会では、マイクロアグレッションの考え方を学んだことや、今後「残ると思う職業」について交流したことにより、視野を広げることができた。プレミアム・スタディは5回参加した。中でも、情報に関する研修は、これから必要な情報モラルや操作手順について学ぶことができ、今後すぐに役立つ内容でありがたかった。

自主課題研修は、食育推進活動やコミュニケーションスキルに関する研修を行った。小中学校の先生方と協議する時間があったことで、新型コロナ禍における食育活動の在り方を考えることができた。今後地域の起点校として、生徒が主体的に取り組める活動を実践していく。

(2) 今後目指す育成指標

- ・学習指導要領の理念と内容及び自校の教育課程の編成方針に基づいた指導計画の立案に指導性を発揮できる。（充実・深化及び発展①「授業構想」）
- ・生徒の実態、社会の状況に応じた高度な実践を展開することができる。（発展①「授業展開」）
- ・自己の役割を自覚し、主体的に教育活動や研修の運営にかかわり、示範的な働きかけができる。（充実・深化及び発展①「自己啓発・人材育成」）
- ・保護者、地域、関係機関と経験を生かして関わり、連携・協働した対応を主体的に行うことができる。（充実・深化及び発展①「連携・協働力」）

4 研修を終えて〈所感〉

長期派遣研修員としての一年間、学校現場では得られない貴重な経験をさせていただいたことに感謝している。研修報告書等の作成においては、文章の整合性や形式の統一等、読み手を意識した文書作りの大切さを学ぶことができた。また、日々の修養を通して、他校種の先生方とも連携を図り、コミュニケーションを重ねたことで、教員として生徒を育てていく責務を共有することができた。今後、ミドルリーダーとしての自覚をもち、主体的に教育活動に邁進していきたい。具体的には、次の二点を意識して取り組んでいく。

一つは、社会の要請を理解し、育成すべき資質・能力を理解した教育活動を行うことである。専門高校の教員として、職業人の視点を育成する必要性を若い教員に伝えていくためにも、今後も新学習指導要領などを精読し、理論を基にした授業改善に取り組む。また、習得した ICT 機器の活用技術等も、授業実践に役立てていく。教科指導方法や評価方法についても、積極的に研修に参加する等、謙虚な姿勢をもち、学び続けていきたい。

二つは、人間関係づくりを大切にすることである。学校教育目標を具現化するためには、教職員が一つのチームとして教育活動に取り組むことが重要である。そのために、日頃から生徒の様子や授業内容、業務分担などについて先生方とコミュニケーションを図るよう心掛ける。

本研修は、教員として、社会人として学びの多い一年間であった。ここで学んだことを忘れずに、次の目標に向かって、今後も研究と修養に励み、人間力を高めていきたい。

資料

(1) 指導計画 (単元の配当時間 37 時間)

第一次 ブラウスの製作 (1 作目)

- 1 洋服製作の基礎知識を学ぶ。 (4 時間)
- 2 ブラウスの製作方法を学びながら製作する。 (12 時間)

第二次 応用ブラウスの提案

- 1 デザイン画の描き方を学び、デザイン画 1 枚目を描く。 (1 時間)
- 2 プロによる動画を視聴する。 (1 時間)
- 3 情報を収集し、デザイン画 2 枚目を描く。 (2 時間)
- 4 ファッションポートフォリオを用いて意見交換する。 (1 時間)
- 5 チーム案を具現化するためのイメージマップ、デザイン画等を作成する。 (4 時間)
- 6 応用ブラウスの提案発表会を行う。 (1 時間)
- 7 最終提案のデザイン画 3 枚目を描く。 (1 時間)
- 8 最終提案の発表会を行う。 (1 時間)

第三次 ブラウスの製作 (2 作目)

- 1 学んだことを活かして、ブラウス (2 作目) を製作する。 (9 時間)

(2) 生徒作成のファッションポートフォリオの例



(3) ファッションポートフォリオに用いたシート
ア「気付く」段階

気付きシート

氏名 _____

1. プロフェッショナルの話を聞いて、気付いたことをメモしよう

2. プロフェッショナルの話のポイントを確認しよう

3. プラウスのコンセプトをチームで話し合おう

(アイデアメモ)

→ 私たちのチームのコンセプトは、

です。

4. 自己評価

	4	3	2	1	✓	✓
職業人の視点	職業人の視点を意識して活動に取り組み大切さを感じることができた。	プロの話から、職業人の視点を知ることができた。	プロの話聞いて、気付いたことをメモすることができた。	プロの動画を視聴することができた。		
知識・技術の活用	基本的な知識や技術を活用し、応用作品の製作について考えることができた。	基本的な知識や技術を活用することで、応用作品が製作できたと気付くことができた。	基本的な知識や技術の活用方法が分からない。	基本的な知識や技術はまだ身に付いていない。		

【本時のまとめ・次の活動への抱負など】

イ「広げる」段階

情報収集シート①

氏名 _____

【条件1】一つの情報だけでなく、いくつかの情報から判断、確認すること。
【条件2】情報源、根拠をメモすること。
【条件3】情報処理室での印刷はこの時間に1人1枚まで。用紙を上手に使うこと。

【自己評価】

	4	3	2	1	✓	✓
情報収集	複数の情報を比較分析し、提案の根拠となる情報を準備(切り抜き・印刷)することができる。	複数の情報から比較分析することができる。	ファッションに関する必要な情報を収集することができる。	自分に必要なファッションの情報を収集することができない。		
デザイン表現	集めた情報を活かし、デザインを描き、具体的な提案をすることができる。	集めた情報を活かし、デザインを描くことができる。	自分なりに工夫したデザインを描くことができる。	自分一人でブラウスのデザインを描くことができない。		

【本時のまとめ・次の活動への抱負など】

ウ「深める」段階

コンセプト追究シート①

氏名 _____

	例1	例2	チームの提案は？
コンセプト	街めがーリーファッション好きの女子学生がデートで着る服	スポーツ好き運動部の日焼けした高校生が休日に戻ると遊ぶ	
イメージ	ガーリーフェミニン	カジュアル・スポーティ	
キーワード	賢くかわいい	開放的で楽なイメージ	
カラー	ピンク・白・パステル	モダン・ナチュラル	
スタイル	スリーブレスコート	パンツを含むスマートに	

【相互評価しよう】

氏名	集めた情報を基に提案していた	伝えるための準備がきちんとしていた	コンセプト(決定)に積極的に関わった	総合評価	気付いたこと・学んだこと
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1		
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1		
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1		
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1		
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1		
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1		

【自己評価】

	4	3	2	1	◎◎◎
視察の広がり	意見交換と集めた情報を、新たなデザインに活かすことができた。	意見交換することで、自分の情報の範囲が広がった。	他者の提案を取り入れ、意見交換することができた。	他者の提案を聞くことができた。	

【本時のまとめ・次の活動への抱負など】

エ「活かす」段階

最終提案シート

氏名 _____

【相互評価しよう】

氏名	集めた情報を基に提案していた	最終提案に合わせた準備ができていた	総合評価	気付いたこと・学んだこと
	4・3・2・1	4・3・2・1		
	4・3・2・1	4・3・2・1		
	4・3・2・1	4・3・2・1		
	4・3・2・1	4・3・2・1		
	4・3・2・1	4・3・2・1		

【ファッションポートフォリオの変化から】

友人からのコメント

自己分析(デザイン3枚の変化、考え方の変化を振り返って)

【自己評価】

	4	3	2	1	◎◎◎
創意工夫	これまでの学びを活かし、創意工夫したデザインを生み出し、具体的な製作方法を考えることができる。	集めた情報を活かし、創意工夫したデザインや製作方法を考えることができる。	自分なりに、創意工夫したデザインや製作方法を考えることができる。	自分一人で創意工夫したデザインや製作方法を考えることができない。	